

Title	語文 第58輯 報告/投稿規定/編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 58
Issue Date	1992-04-20
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68844
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【報告】

本年一月十五日（祝）、平成三年度大阪大学国語国文学会を東京書籍ビル（新大阪）にて催した。内容は次のようであった。

○研究発表

広瀬旭荘の造語法

本学大学院博士後期課程 福島理子

『葛の松原』出版をめぐる芭蕉と支考の關係

甲南大学教授 八亀師勝

○講演

多少と大小

本学助教授 蜂矢真郷

新古今雑感

本学名誉教授 田中 裕

○総会

事業報告、会計報告、平成四年度予算案承認

なお、総会終了後、懇親会をホテル・コンソルトにて行い、いずれも盛会であった。次回以降も多数の会員の参加をいただきたい。

☒ 投稿規定 ☒

- 一 大阪大学国語国文学会員は、本誌に投稿することができる。
- 一 原稿の内容は、国語学・国文学・国語教育に関するものであること。分量は四百字詰原稿用紙で三十枚前後とする。
- 一 原稿の送り先

〒五六〇 大阪府豊中市待兼山町一―一

大阪大学文学部国文学研究室気付

大阪大学国語国文学会編輯委員会宛

- 一 原稿の採否は編輯委員に一任されたい。
- 一 投稿原稿は原則として返却しない。採用にならなかった原稿の返却を希望する場合は、その旨を申し出てほしい（返送料添付のこと）。
- 一 論文掲載の場合は、本誌三部・抜刷三十部を贈呈する。

編集後記

試験の季節が過ぎて学内がひっそりとなってきました。毎年のことながら、やがて別れがあり、また出会いがあります。

会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

【語文】第五十八輯をお届けいたします。本輯には三編の論文を掲載しました。いずれも若い人たちの論ですが、これまでに積み重ねられた研讀の成果です。

また書評二編を掲載しました。これまでも会員の方の著書が刊行された時には、本誌で取り上げてきましたが、これまでは、多くの場合、学内の関係者による「紹介」という程度でした。そこでこの点でも会誌の充実をはかりたいと考え、広く全国的な視野のもとに適任者をお願いしました。幸いにもお二人には私どもの意をお汲みとり下さり、御覧のような玉稿を頂くことができました。御執筆のお二人には編集部からも篤くお礼申し上げます。

会員の積極的な投稿をお待ちします。力作をお寄せ頂き、そのことによって本会をいっそう盛りたてて下さるようお願いいたします。

(後藤昭雄)

語文 第五十八輯

平成四年四月十五日 印刷

平成四年四月二十日 発行

編集・
発行者 大阪大学国語国文学会

〒560 大阪府豊中市待兼山町一―一

大阪大学文学部国語国文学研究室

代表 信多純一

振替口座 大阪 四―二四六四―

電話 (〇六) 八四四―一一五一

印刷 昭和堂印刷所